



研究テーマ

- 1 日本と海外をつなぐ英語オンライン国際協同学習の方法論の研究
- 2 “特定の目的のための” 英語の研究 (ビジネス英語, 農学英語, 看護英語)
- 3 証拠に基づく英語教育の実践とその研究



荒木 瑞夫

あらい たまお
多言語多文化教育研
究センター
英語教育部門

准教授

キーワード

英語教育, e ラーニング, ESP, 農学英語, 看護英語, ビジネス英語, 教育データ, 英語オンライン国際協同学習

特許情報・
共同研究・
応用分野など

共同研究

・2012年4月-2014年3月
(一社)大学英語教育学会(JACET)と(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会(IBC)の「英語によるビジネスミーティング」共同研究に参加

学会活動

・JACET 九州・沖縄支部 ESP研究会副代表

資格

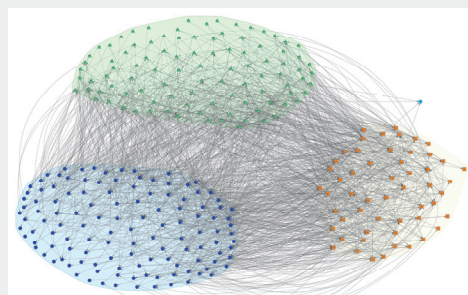
・CELTA (2004年10月, ブリティッシュ・カウンシル東京)
・2021年3月～ 文部科学省 Scheem-D ウェブアクター

研究概要

大学での英語教育実践をベースに、海外の英語教室との協同学習の方法論や「特定の目的のための英語(English for Specific Purposes, ESP)」の研究を行っています。これまで、看護学、農学、ビジネスなど様々な分野で専門を学ぶ学生に向けた英語カリキュラム作成と改良作業に携わり、「学習者のニーズ」を最重要視しながら、教員や教材、指導法の最善の組み合わせについて研究を進めてきました。複数の全国規模のESPや英語教育実践に関する調査チームに参加し、多様な英語教育実践のあり方について知識と理解を深めてきました。同時に、言語学と心理学の理論に基づく基礎研究も進め、言語学習の全体像をとらえることを大きな目標として研究しています。

1 日本と海外をつなぐ英語オンライン国際協同学習の方法論の研究

国や地域を隔てた教室を結び付けて語学教育を行う試みは、インターネットが一般的になり始めた約40年前から行われてきました。人と人を結び付ける「ネット」と、人と人のコミュニケーションに不可欠な言語を教えることは、実に相性のよい組み合わせのようですが、この方法論はまだ発展途上と言えます。理由の一つに、継続的で一定の目的を持った語学プログラムにするには、教室での学習者へのアプローチとは別に、参加者間の情報共有や協同学習の全体像の把握などに、多くの作業が必要です。語学教室のDXでもあるオンライン協同学習の設計とそれに不可欠な「舞台裏」の作業に、15年の経験と研究成果に基づき助言をさせて頂くことが可能です。



2 “特定の目的のための” 英語の研究 (ビジネス英語, 農学英語, 看護英語)

「特定の目的のための英語」(English for Specific Purposes, ESP)とは、学習者のニーズから出発して英語教育をデザインする方法論です。社会の中で英語が必要になるのは、常に具体的な場面であり、そこで必要とされる英語と学習者のスキルとの間にギャップがあれば、そこを埋める英語学習・英語教育をデザインする方法論を提供してくれるのがESPです。専門課程や社会での英語ニーズを踏まえて大学でのカリキュラムデザインと改善に取り組んできた私どもの方法論は、社会の様々なシチュエーションでの語学教育・学習のデザインにお役に立てると思います。

3 証拠に基づく英語教育の実践とその研究

多くの学生に向けて英語教育を行っている本学では、データと向き合いながら、全体を把握しつつ英語教育を進めています。データを実践に還元する方法についてともに考えさせて頂く準備があります。

ホームページ

なし

技術相談に応じられる関連分野

・海外教育機関等とのインターネットを用いた協同学習環境の構築
・企業・医療機関などでの英語学習ニーズと国際化対応に関する助言と提案
・教育データの活用方法に関する助言

メッセージ

新型コロナウイルス感染症により、DXと遠隔授業が一般的な選択肢となり、教育機関同士の連携も増えてきています。海外の大学とのインターネットを用いた協同学習は、今後多くの語学授業にとって考慮すべき選択肢となっていくと考えます。そのお手伝いをさせて頂く用意があります。